

令和 3 年 5 月 30 日現在

機関番号：16102

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2020

課題番号：19K23290

研究課題名（和文）ASD児の社会性の発達を促すムーブメント教育・療法による体育の取り組み

研究課題名（英文）Physical Education with Movement Education and Therapy for the Development of Social Skills in Children with ASD

研究代表者

尾関 美和（Ozeki, Miwa）

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・講師

研究者番号：60847549

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 300,000円

研究成果の概要（和文）：ムーブメント教育・療法の理論を用いた知的特別支援学校小学部1、2年生の体育の授業実践を6回行った。その結果、自閉スペクトラム症（autism spectrum disorder以下ASD）の児童9名中7名にMEPA-Rの言語、運動・感覚、社会性全ての分野に於いて評定の向上が複数みられた。残り2名についても担任の授業記録や日常生活の記録には、友だちを模倣をする様子や手招きで友だちを誘う様子が記されていた。ASD児の特徴である「非言語コミュニケーション」の力の向上につながったといえる。このことから、ムーブメント教育・療法は、ASDの子ども達の社会性の発達を支援することが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

DSM-5ではASDの診断基準が変更し、支援方法に新しい流れの必要性が叫ばれている。高橋ら（2014）は社会性に関する内容として「相互の対人的-情緒的関係の欠落」とし、その支援として対人的相互反応で非言語的コミュニケーション行動を用いることを述べている。また、近年ASD児の教育として、発達検査の結果を踏まえた学習支援や問題行動に対するエビデンスにもとづく幾つかの方法がとられている。しかし個別的な対応が多く、般化が困難となる場合がある。従ってASD児の社会性を発達の視点からとらえ、集団での学びを重視しているムーブメント教育・療法の実践を行い、発達を促すための手がかりを検証したい。

研究成果の概要（英文）：Physical education classes for first and second grade students of an elementary school for intellectual special needs using the theory of movement education and therapy were conducted six times. As a result, seven out of nine children with autism spectrum disorder (ASD) showed multiple improvements in MEPA-R ratings in all areas of language, motor/sensory, and social skills. In regards to the other two children, the homeroom teacher's classroom records and daily life records showed that the children imitated the movements of their friends and beckoned their friends to join them, leading to an improvement in "nonverbal communication" ability which is a characteristic of ASD children. Thus, it is clear that movement education and therapy can support the social development of children with ASD.

研究分野：特別支援教育

キーワード：ASD児 体育 ムーブメント教育・療法 MEPA-R KHCoder 集団

## 1. 研究開始当初の背景

(1) DSM-5 では、自閉スペクトラム症 (autism spectrum disorder 以下 ASD) の診断基準が変更し、支援方法に新しい流れの必要性が叫ばれている。高橋ら (2014) は、社会性に関する内容として、「相互の対人的-情緒的関係の欠落」の支援として、対人的相互反応で非言語的コミュニケーション行動を用いることを述べている。また近年、ASD 児の教育として、発達検査の結果を踏まえた学習支援や問題行動に対するエビデンスにもとづく幾つかの方法がとられている。しかしこれらは個別的な対応が多く、他の場面で学習した成果を発揮することなど般化が困難となる場合がある。これは ASD 児の特性に所以しているといえる。

本研究では、ASD 児の社会性を発達的な視点からとらえ、教員の児童観察の視点を明らかにしたうえで授業実践を行い、実践にあたり授業実践のベースとしてムーブメント教育・療法に着目した。この教育・療法を用いる根拠としては、特別支援学校学習指導要領体育の目標にも関連している。ASD 児に求められる社会性と体育の目標とを照らし合わせ、これらの要素を含み集団の学びを重視しているムーブメント教育・療法を取り入れた指導を試みたいと考えた。

## 2. 研究の目的

(1) ムーブメント教育・療法の理論を用いて児童の行動変化を分析し、合わせて、支援している教員の観察視点の変化を追うことにより、児童の発達を促すための教育の手がかりを、実践の記録、教員の観察記録、アンケートを基に検証することである。

## 3. 研究の方法

(1) 対象児童は、知的障害特別支援学校小学部児童 1, 2 年生 ASD 児 9 名である。児童の実態把握には、ムーブメント教育・療法の指導で使用されるアセスメントである小林 (2005) の MEPA-R (Movement Education and Therapy Program Assessment-Revised 以下 MEPA-R) を用いる。このアセスメントは、行動を支える 3 分野 6 領域について、0 歳 (0 ヶ月) から 6 歳 (72 ヶ月) までの発達段階に応じて各項目を、達成 (+)、未達成 (-)、芽生え (±) でチェックし、その結果を MEPA-R プロフィール表で表す。そのプロフィール表を基に学習目標及び学習活動を決定し、一定の期間授業実践を行った後、再度アセスメントのチェックを行い、MEPA-R プロフィール表を作成する。この評定方法を用いることにより授業の PDCA サイクルの指標とする。

(2) 教員による体育の授業や学校生活での観察記録と授業後のアンケートの記載内容により、児童の授業での行動変化や日常生活での行動変化について記録を得た。

尚、本研究は鳴門教育大学倫理審査委員会での承認を受け、対象となった児童、保護者には本研究に関する説明を行い、同意が得られた児童を対象としている。

#### 4. 研究結果

表1 ASD児のMEPA-R項目に基づく  
第2回評定分野別達成スコア

児童	運動・感覚	言語	社会性	合計
A	2	0	2	4
B	1	1	0	2
C	1	1	3	5
D	0	8	0	8
E	0	0	0	0
F	0	0	0	0
G	3	3	0	6
H	4	2	2	8
I	4	2	2	8
計	15	17	9	41

きの模倣や身振りの理解・使用等、非言語的コミュニケーションに関する力の向上が記載されていた。このように、児童全員にムーブメント教育・療法を用いた体育での授業実践の影響が見られた。

(2) 教員のアンケートについては、樋口(2020) KH Coderの共起ネットワークを作成した。図1では、共通して見られる「活動」「友だち」「難しい」の他に、第1回目のアンケートでは、「見る」「子ども」「模倣」「指示」が強い共起関係にある。第1回目の授業であり、児童も教員も授業の目的達成に向け、力を注いでいたことが推察される。第6回では、「もう少し」「ペア」という言葉の他、「マット」「太鼓」「パプリカ」「声」という言葉が記されていた。

(3) この授業実践は、3ヶ月間の指導の結果をまとめたものである。この間、体育の授業以外にも児童は多くの学習を経験しており、児童の成長の全てがムーブメント教育・療法を用いた結果であるとは言いがたい。しかしながら、MEPA-Rプロフィール表や観察記録の記載でも明らかなように、この授業での成果は大きいと考える。

(4) MEPA-Rプロフィール表によると、発達の変化が現れた児童が多かったものの、特にASD症状が顕著な2名の児童では変化が見られなかった。これは、短期間の実践であったことや、児童の実態の違いが影響していると考えられる。しかし、観察記録では、この2名の児童の発達の記録が記されていたことから、全児童にムーブメント教育・療法による体育での活動の影響が見られたことは明らかである。

(5) MEPA-Rの項目で芽生えや達成となった内容、教員の観察記録の中には、ASDの特性に関係するものも多くみられた。「担任の声かけや指さしなしで友だちと一緒に活動ができる」「自分から友だちの手を握り、歩くことができるようになった」「ペアになりたい友だちの横に行ったり、自分の名前を言ってペアになりたいことを主張したりする様子が見られた」「手招きをして

(1) 第1回目のMEPA-Rの結果と第2回目のMEPA-Rの結果を比較すると、第2回目のMEPA-R評定では、9名中7名の児童に複数の項目で、達成(+)や芽生え(±)の増加がみられた(表1)。特に「言語」分野、「運動・感覚」分野に於いて芽生えや達成が多く確認された。2名については、MEPA-R評定での変化はみられなかったが、教員の観察記録に「休み時間に友だちのまねをする様子が見られた」ことや「友だちを手招きして誘う行動が見られた」などが記録されており、動

誘う様子が見られた」「友だちへの意識を向けながら運ぶことができた」などが記録されていた。複数の児童において、模倣ができるようになったことや自分から相手に何かを伝えようと行動する様子がみられた。

(6) 是枝らは、ASDの運動模倣能力の弱さには中枢神経系の機能障害に起因することが示唆されていることに加え、模倣スキルの学習に関しては、自閉症の心理行動特性（例えば、「さよなら」と手を振るなど、行為と感情の協調が不得意なこと等）を考え、各行為やジェスチャーの意味を的確に伝えること、他者との関係性の促進にも配慮した支援の必要性を述べている。ムーブメント教育・療法の「楽しさ」は、ASDの能力の弱さである心理行動特性にも大きく働きかけた。大勢で楽しく行う活動のなかにも、対象児童の活動の意欲を高め、自主的な動きを導き出す力があると考えられる。児童の行動記録からは、仲間に対する興味が高まっていることや、授業以外の場で、体育での活動が般化されていること等が複数の場面でみられた。ASD児の特徴である「相互の対人的・情緒的関係の欠落」「非言語的コミュニケーション行動の欠陥」などを補う能力の開花がみられたと言っても過言ではない。これらの結果から、本実践で社会性の発達が見られたことは注目されることである。ASDが苦手とする「他者が何を考え、どんな期待や信念をもっているのかなどの理解に応じて行動し、思考する能力」への発達も期待できる。

(7) 今回は、体育での取組であったが、動きを学び、動きから学ぶ視点を活かしたムーブメント教育・療法の指導は、自立活動や生活単元学習、国語、算数等の教科指導でも実践は可能で

あり、十分な成果を期待することができる。このように楽しく学ぶ授業は、児童自らの自主性を育み、その力は般化場面でも発揮できることが明らかとなった。

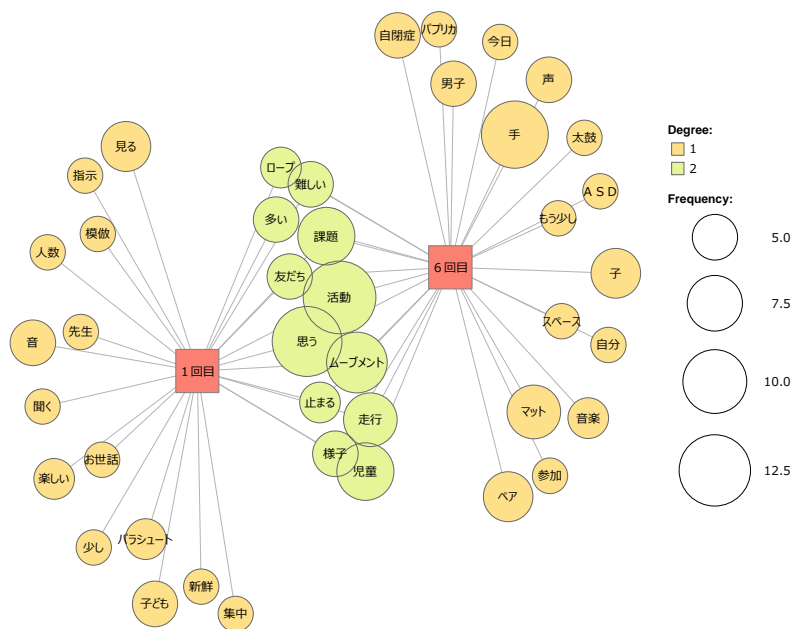


図1 第1回と第6回の授業後教員アンケートの共起ネットワーク

(8) 共起ネットワーク(図1)からは、教員の児童への観察力や発達への見取りの示唆が表れていた。児童が授業に

落ち着いて参加できるようになると、教員は、ムーブメント教育・療法による遊具など教材環境の効果にも目を向けたり、児童の目標をさらに高みへと期待したりしながら指導していることが推察される。授業目標の達成が、児童の学習活動へのさらなる参加と教員の積極的な授業指導向上との相乗効果を生じているのである。

(8) 最終アンケートの内容では、複数の教員が「これまで授業の活動内容を考えるのが難しかった。この実践のおかげでヒントをもらうことができた」ということを記載していた。子どもの興味深い教材を使用することで、楽しい活動が実践できる可能性は高まるが、児童や教員の満足度や、より高い成果を求めるのであれば、ムーブメント教育・療法の手続きを踏まえ、MEPA-Rの結果を反映した授業作りが必要不可欠である。今後、さらに実践を重ね、児童の社会性の発達に支援できる具体的な教育を蓄積していきたい。

(文献)

- ①日本精神神経学会（監修）高橋三郎・大野裕（監訳）：DSM-5 精神疾患の診断統計マニュアル、医学書院、2014
- ②小林芳文：MEPA-R ムーブメント教育・療法プログラムアセスメント、日本文化科学者、2005
- ③是枝喜代治・小林芳文・太田昌孝：自閉症児の運動模倣能力の特性. 発達障害研究、25(4)、265-280、2004
- ④樋口耕一：社会調査のための計量テキスト分析 ―内容分析の継承と発展を目指して― 第2版、ナカニシヤ出版、2020

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 尾関美和	4. 巻 100巻
2. 論文標題 ASD児の社会性の発達を促すムーブメント教育・療法による体育の取り組み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本児童学会	6. 最初と最後の頁 1 - 10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 尾関美和 高橋真琴
2. 発表標題 ASD児の社会性の支援に向けたムーブメント教育・療法による体育の取組
3. 学会等名 日本特殊教育学会第59回大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------